

DQNネームを付けられた私

幻想的な人間

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

子供のころ私はアイドルみたいな存在だった。

なぜなら、私の名前が輝手意（キテイ）だからだ。

小学校、みんなから珍しい名前ときれいな服を着ていたという理由で、もてはやされていた。

とてもいい気分だ。

だけど時がたち中学生。

私は名前を理由にイジメの対象にされる。

## 注意

この物語はすべてフィクションです。実際の人名とはなにも関係ありません。また作者はハローキティのアンチでもありません。そして、現実問題こんな名前がついている方を見かけた場合、イジめるのではなく、助けることを考えてください。



## DQNネームを付けられた私

私の名前は山田輝<sup>キ</sup>手<sup>テイ</sup>意。今年で20歳になる。

名前の由来は、輝くその手に意思をつかんでほしいから。というのが父親の言葉。

だが、実際には母親が他の人の意見を無視して、キテイちゃんと呼びたいからカタカナで書いたら、母方の祖父が漢字に直して届をだしたのだという。

それくらい、母親は母方の祖父と疎遠になつたらしく、私は一度しか祖父の顔を見ていない。

父親は何も言わなかったらしく、祖父から、名前の漢字の由来だけを聞いたのだ。

この年になつても私は母親に聞く。

「なんで私はハローキティと一緒にの名前なの？」

すると決まってこの返事が返ってくる。

「だって、かわいいじゃん!!」

そして、私は今、右手の包丁を母親のお腹に何度も何度も刺していた。

血の泡を噴きながら何でというような顔で私を見つめる母親。

死んで当然だ!!!!

なんでそんな不思議そうな顔をする!!!

私はこの名前ですごい人生を送ってきた!!!!

お前みぢいな母親がいたせいで私はこんな最低な名前で生まれてきたんだ!!!!!!!

お腹だけではなく、胸も、足も、腕も、顔面も、突き刺し続けた。顔面はすでに原型をとどめてはいない。それでも刺し続けた。

正気に戻ったのは父親が部屋に入ってきた時だった。



「はじめまして。やまだきていといいますー！」

小学校の時、私はアイドルのような存在だった。名前もそうだが、来ている服がかなりキラ付いた服だったのだ。

みんな笑いながら接してくれたいい時代だった。

中学に上がる時父親の仕事の都合で転校することになった。

みんなと離れるのは少し悲しかったが、自分の名前ならどこでもやっていけると思った。

しかし中学に上がった瞬間。私は名前を理由にイジメを受け始めた。

最初のころは簡単な嫌がらせだった。鉛筆を盗られたり、押されたりされた。

その時のイジメ側の決め台詞はこうだった。

「中学になってキティとかダサすぎw。そもそも全然可愛くないしw。チョーキモイ!!wとつとと死んじやええばw?」

当時の私は恥ずかしくて自分の名前が理由でいじめられているなど先生には話せなかった。

徐々にエスカレートして行って、学校の掲示板にキティがバラバラになった写真を張られたり、鞆がどこかに盗まれたり、あこがれの男

子からもキティがうざいと言われた。

そして最後には私の顔写真と名前をネットに晒したのだ。

結局晒したのがばれてイジメ側は退学処分にされたのだが、私は心を完全に砕かされてしまった。

勿論、この間も母親に名前を変えてと頼んだが可愛いの一点張りがかえさせてくれなかった。あまり強行手段を取りたくなかったし、当時知識もあまりなかった私は、一年休学する形で高校に入学した。

高校ではさらにひどくなった。

ネットで晒された情報を知っている人間がいたのか、私の復学一日目からイジメが始まった。

中学の頃では想像できないイジメを体験した。廊下を歩くと

「邪魔だよDQNネーム！」

と言われて肩をぶつけられたり。

「うわキモw。名前がキティなんだってよw」

「本人の顔と本物比較しろよw人外という部類ではあつてるかもだぜw」

「あんなんでもくまた学校にこれたよねw」

陰口が聞こえるように言われた。

そして、一番応えたのがテストで一位置をとった時だ。

私をイジメていた人たちがさらにイジメをひどくしてきたのだ。

キャットフードと、猫缶を投げつけられたり、泥水をかけられたりされた。

そして、廊下を歩くと無限ともいえる時間の陰口をたたかれたのだ。

「猫の癖によくテスト一位になったよねw」

「どうせカンニングしたんでしょw」

「猫のやりそうなことだよなw」

「キモイ猫の癖にウザいんだよw」

「死んじまえばいいのにさw」

私はなにもかも信用できなくなってきた。母親になんともな

も頼んだ。名前を変えてくれと。改名してくれと。しかし彼女は何も知らない顔で笑いながら言うのだ。

「嫌よ。だって、かわいいじゃん!!」

精神的にもまいていた私は大学ではなくて就職活動をした。

しかし、どこの職場も名前を見ると笑い出す。

どこの職場も名前を聞くと見下してくる。

どこの職場も名前を知ると仲間がいなくなる。

そして、誕生日である今日。

私は母親を殺した。

遺書には、私のその経験を書いて、自分勝手なお願いを書いた。

どうか、私の名前を変えてください。それだけが私の希望です。